



目次

- P2 第13期環境アドバイザーいよいよ始動！
環境政策課
- P3 12期を振り返って、そして13期への期待
副代表 奈賀由香子
- P4 ゴミ部会 第12期自然環境部会活動報告
部会長 田中和夫
- P5 第12期 温暖化・エネルギー部会活動記録
部会長 奈賀由香子
- P6 水のある風景 — 群馬の名水
前橋市 常見智之
- P7 小学校の給食残渣（生ごみ）循環事業の
取り組み 太田市 谷之木勇作
- P8 ぶらり、途中下車！ 上信電鉄の旅♪
—公共交通を利用して—
伊勢崎市 高橋陽子

表紙：「雄川堰 群馬県甘楽郡甘楽町小幡の城下町に造られた用水路」

写真 常見智之 写真説明は6ページ

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2024年4月24日現在）

第13期（登録期間：2024年4月1日～2027年3月31日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計225名です。

自然環境部会 116名、温暖化・エネルギー部会 99名、ごみ部会 70名、広報委員会 31名が登録し活動されています。

群馬県環境情報サイトのURLが変わりました（2023/10/1～）

<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、

<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/501458.html>

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。

<http://www.gccca.jp/volunteer/>



第13期環境アドバイザーいよいよ始動！

群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係

4月になりました！

今年も見事なサクラ吹雪に後押しされて、希望も新たに新年度を迎えられたみなさまも多いかと思います。もちろんこのご時世ならではの様々な想いもございますが、軽くりセットするには良い季節ではないでしょうか。

さて、ご案内してまいりました第13期環境アドバイザー登録も順調に進み、いよいよ下記の予定にて活動を開始いたします。



1

はじめに、お住まいの地区ごとに環境アドバイザー制度の説明会を開催、あわせて連絡協議会の活動を紹介して幹事の選出もいたします。

- ・ 5月14日(火) **西部地区** 14:00～ 西部環境森林事務所 (高崎市台町4-3)
(高崎・安中・藤岡・富岡・多野郡・甘楽郡)
- ・ 5月15日(水) **中部地区** 14:00～ 中部環境事務所 (前橋市上細井町2142-1)
(前橋・伊勢崎・渋川・北群馬郡・佐波郡)
- ・ 5月17日(金) **東部地区** 14:00～ 東部環境事務所 (太田市西本町60-27)
(太田・桐生・みどり・館林・邑楽郡)
- ・ 5月22日(水) **北部地区** 10:00～ 利根沼田環境森林事務所 (沼田市薄根町4412)
(沼田・吾妻郡・利根郡)
- ・ 5月29日(水) **全県対象** 14:00～ 群馬県庁ビジターセンター (前橋市大手町1-1-1)

* 日程が合わない場合、他地区への説明会に参加も可能です。

* 参加・不参加は任意ですが、幹事等を決めますので、多くの方の御参加をお待ちしています。

* 登録されたみなさんには別途に詳細のご案内をいたします。

2

連絡協議会の各部会・委員会を開催して組織の運営を進めます。(開催日順)

- ・ **温暖化・エネルギー部会** 6月 2日(日) 10:00～12:00 前橋元気プラザ21 3階会議室
- ・ **自然環境部会** 6月 4日(火) 18:00～19:30 前橋元気プラザ21 3階会議室
- ・ **広報委員会** 6月 5日(水) 13:00～14:30 前橋元気プラザ21 3階会議室
- ・ **ごみ部会** 6月13日(木) 10:00～12:00 前橋元気プラザ21 3階会議室

* 参加・不参加は任意ですが、部会長等を決めますので、多くの方の御参加をお待ちしています。

その後、幹事会にて第13期環境アドバイザーの活動内容を検討し総会へ備えます。

3

第13期環境アドバイザー連絡協議会総会

- ・ 6月26日(水) 14:00～ 群馬県庁ビジターセンター

* 参加・不参加は任意ですが、多くの方の御参加をお待ちしています。



12期を振り返って、そして13期への期待

第12期副代表 奈賀由香子

12期はコロナ禍の中で始まりましたから、前期のような活動はできなかったかもしれませんが、人と接触をしないのでできることの試行錯誤は、たくさんやられてきたと思います。どういう状況でも、適応するすべを見つけていくものですね。むしろ、そういう状況下だったからこそ、「どうしたらやれるか？」を考えた情熱アツイ方たちが活動を引っ張ってくれていったからこそ、アドバイザーに限らず、市民活動は続けられてきたのだと思います。

社会課題に気がついて、「やろう」と思ったとしても、自分でできることを一人でやっているだけでは辛くなってきてしまいます。周りは何も変わらないのに「自分一人がやっても変わらないじゃないか」「一人でやっても意味ないじゃないか」というふうに。だからこそ、仲間が必要なのだと思います。思いを分かち合ったり励ましあったりしながら、「では何ができるか？どうしたらいいか？」を、お茶飲みながら一緒に考えたり話し合ったりする仲間が必要です。

13期にもまたコロナ禍クラスの大きな社会の波があるかもしれませんが、アドバイザーに登録するということは、いつでも横繋がりがあるということです。連絡協議会はそういうためにあるのだと思います。アドバイザーは個人が登録するものですから、13期には、新たにアドバイザーになられた方が、仲間や活動の場を見つけたり、交流を広げられたりする場となることを期待します。Z世代の若い方たちはすでにSNSを通して活動の場を見つけ、遠く海外ともつながり、いろいろなイベントを企画開催したり、動きが早いです。私もそういうところへ出ると、ほとんどが若い方ばかりでちょっと気後れしてしまいますが、世代を超えて交流できる場に出かけていきたいですし、またそういう場をつくりたいと思います。

最後にお隣長野県の上田市での「上田リバーズ会議」という素晴らしい活動を紹介します。もともと環境面での市民活動である程度有名な地ではありますが、上田ビジョン研究会とNPO法人上田市民エネルギー、一社)



自然エネルギー共同設置推進機構という3つの団体が主催する会議体です。これらの団体はメンバーがかぶっているところが多いものの、それぞれの役割を分けて活動していて、なおかつ上田という町を逆転 (Reverse) の発想で、再生 (Rebirth) させたいという思いで「上田リバーズ会議」と名付けたそうです。市が共催し、県も大学も商工会議所も後援をするという、とても期待されている市民会議です。HPもあるのですぐに調べられますから、ぜひチェックしていただきたいのです。一昨年、温エネ部会の地域環境学習事業で信州大学の茅野先生にお越しいただきましたが、きっかけはこの上田リバーズ

会議にオンライン参加し、分科会で茅野先生のグループでの意見交換を通して、ぜひこの先生に来ていただきたいと思ったからでした。そうなのです、このリバーズ会議は「熱くさせる何か」があるのです。ここまで市民をその気にさせる秘訣は???・・・始まりはやはり人間関係にあると私は考えています。だから、仲間づくりが大事だと思うのです！

最後になりましたが、12期副代表はこれにてお役御免となります。お世話になりました。13期の役員さんに期待するとともに、群馬の仲間、できることやっていきましょう！



環境アドバイザー第13期の登録はお済みですか？

登録フォーム：<https://forms.office.com/r/fcq8XcCJWg>

ご不明の場合は、環境サポートセンターへ（巻末参照）

第12期自然環境部会活動報告

第12期 自然部会長 田中和夫

<令和3年度>

新型コロナ流行の影響で会議はほとんど中止、3月12日のみで4名参加、高山村作業は5月5日、7月10日、8月7日、9月11日、10月23日、11月13日の計6回実施、延べ45名参加。

<令和4年度>

例会は5月14日、7月23日、9月10日、11月12日、1月28日、3月26日の6回実施、延べ28名参加、高山村は5月15日、6月18日、7月10日、8月14日、9月11日、11月13日の計6回実施、延べ33名参加。2月18～19日Gメッセ群馬で環境フェスティバル、高山村活動をパネル紹介。

<令和5年度>

例会は5月28日、7月1日、9月9日、11月11日、1月13日、3月9日の6回実施、延べ16名参加。高山村は4月14日、7月9日、8月20日、9月10日、10月8日、11月12日の6回実施、延べ30名参加。

第12期ゴミ部会のまとめ

第12期 ゴみ部会長 山田一朗

第12期のごみ部会の活動報告としては、先の3月13日に開催された幹事会に提出した資料「12期ごみ部会記録」の通りです。「新型コロナ緊急事態宣言」が解除されるまで半年以上、部会を開催できずメールやLINEグループで連絡を取り合うだけでしたが、解除後は主として前橋元気21・Mサポにおいて、約2年半にわたり、月1回位のペースで部会（代替部会を含む）を開催してきました。リフィル運動、プラスチック新法、ガラス・陶磁器のリサイクル、プラスチックごみ0宣言、生ごみの堆肥化など各地で活動する部会員に関係することを対象として、話し合いや勉強会を積み重ねてきました。ごみの減量は、誰にでもできる温暖化対策です。中でも生ごみの堆肥化は、単にごみを減らすだけでなく、生物多様性や有機農業など重要な問題を含んでいると思います。最後に、部会員を始めとする関係者の皆様にあらためて感謝申し上げ、今期のまとめに代えさせていただきます。

第12期広報委員会活動報告

第12期 広報委員会会長 井上金治

広報委員会はグリーンニュースの編集を主な活動とし、第12期ではグリーンニュース85～95号を発行しました。この間、コロナ感染症のため対面での会議を少なくし、メールでの稟議で編集作業を進めてきました。また環境フェスティバルなどで、広報委員会としてグリーンニュースなどの展示を行ってまいりました。

広報委員会の今後の課題としまして、①グリーンニュースへの投稿、②編集ソフトの導入検討を挙げます。

① 投稿数について

これまでのグリーンニュースは環境アドバイザーの活動紹介および記録としてお役立ちと思いますが、記事の投稿やグリーンニュースそのものに対するコメントは非常に少ない現状にあります。今後、環境アドバイザーの活動を活発化し、グリーンニュースへの投稿を促す必要があると考えています。

② 編集ソフトの導入

現在グリーンニュースはマイクロソフトのWordで編集しているが、よりきめ細かい編集のためには編集ソフト（パーソナル編集長など）の導入が必要に思います。専用ソフトの導入によって現在8ページの紙面は大幅に縮小し、さらに多くの記事を掲載できると考えます。

今後とも、環境アドバイザーとして、読者として、ぜひ積極的なご参加をお願いいたします。

第12期 温暖化・エネルギー一部会 活動記録

第12期温暖化・エネルギー部会長 奈賀由香子

11期から引き続き12期の3年間の活動としては、皆さんからご提案のあったものはかなりやれたと思います。連絡体制も部会のメーリングリストを作りメンバー同士の情報交換ができるようになりましたし、オンラインやハイブリットでの部会開催、また複数名で副部会長を担っていただき、チーム活動を取り入れるなど、できることは何でもやってきました。部会は、やりたいことを実現する場としての役割を担えていたかなと思います。部会長の仕事は皆さまのお世話係と考え、二期6年間務めさせていただきましたが、今限りで降ろさせていただきました、次の方をお願いいたします。至らぬ点は山ほどあり、ご不満も多々おありだったことと思いますが、どうぞ次期部会での活動に活かしていただければと思います。6年間ありがとうございました。引き続き部会でお目にかかりましょう！

1) 定例会(2ヶ月に1回)16回開催 総参加人数172人 一回の平均参加人数11人

・定例会内での部会メンバーによる学習会

テーマ: オンラインツール miro の使い方(講師: 酒井さん)、SDGs と CSV(講師: 畑元さん)、エシカル消費(講師: 本多さん)

・外部に依頼したもの

Refill 活動オリエンテーション(Refill Japan 事務局)、県出前講座(グリーンイノベーション課)、SDGs ボードゲーム(土居様)、行政について(小川県議)

2) 自主活動

・県地域環境学習を毎年一度開催 計3回 総参加者数120名

2021年「もったいない! 未利用の熱エネルギー」講演と実験

講師: 富岡賢洋氏(部会メンバー) 実験: 畑元浩氏(部会メンバー)

2022年「5つのゼロ宣言条例と群馬の可能性」

講演1「条例を読み解く」講師: 平井優一弁護士(群馬弁護士会)

講演2「群馬の可能性」講師: 茅野恒秀准教授(信州大学)

2023年「ゼロ宣言の仲間作り」

講演1「合意形成から仲間づくりへ」講師: 前川智美准教授(前橋国際大学)

講演2「我が家でできる脱炭素」講師: 吉田登志幸氏(1985 うちエコ診断員)

・WSの開催 3回開催 総参加者数87名

2021年「ミステリーWS」講師: 高橋敬子先生(立教大学)

2022年「群馬のロードマップ作り」講師: 歌川学氏(産業技術総合研究所)、高橋敬子先生

2023年「脱炭素ゲーム」県に依頼

・見学会(株式会社スイシンで熱回収機、招きの湯で熱回収現場、ワイルドライフガーデン、伊勢崎市リサイクルセンター)

・チーム活動(太陽光、赤城での地熱見学会、公共交通実証ツアー、ミニ風車実証実験)

・Refill Japan の群馬県窓口として Refill ぐんまの立ち上げ

3) 活動協力

・ワイルドライフガーデンでの事業協力(2022年、2023年) ほか

水のある風景—群馬の名水

前橋市 常見智之

群馬の名水

我が県は、地政学的に関東の北辺で高い山脈に囲まれ、山頂に降り注いだ雨露が地層を下り湧水となり豊富な名水も多く、これらが土壌を潤しています。その恩恵から農作物は豊富で、農産業から食品産業等に大きな成長要因になっています。

本県的主要な湧水：

【群馬の名水百選：①箱島湧水 ②雄川堰 ③尾瀬の郷片品湧水群 ④神流川源流】

①箱島湧水（東吾妻町）と②雄川堰（ぜき）（甘楽町）は環境省認定の「名水百選」に選定されています。前者は、大杉の根元から湧き出る水が滝のように落ちる風景が美しく、初夏（6月中旬～7月）には湧水が注ぐ鳴沢川にてホタルの飛び交う様が観察出来ます。後者は、水源は稲含山（いなふくみやま）から流れ出す雄川で約400年前に構築され、昔の城下町小幡地区の姿を今に伝える貴重な文化遺産です。清らかな流れに沿った古い武家屋敷の面影の家並みと桜並木の景観が魅力です。灌漑（かんがい）用水では名水で、設備も技術的に世界的評価を得ており「世界かんがい施設遺産」にも登録されています。又同省の「平成の名水百選」には③尾瀬の郷片品湧水群（片品村）と④神流川源流（上野村）が選ばれています。前者は「名水ご案内マップ」を用意して気軽に

に楽しめるように努めており、後者は、透き通る程の清流で透明さは”魚が見える程”と釣り人から人気です。

私は「水のある風景」サイトを運営しております、常見智之と申します。20数年前からの取材データと最新取材で、群馬県を中心とする”湧水と里の自然と取り巻く風情”を題材にホームページを立ち上げております。（電子書籍出版）

<https://yusuifan.com/home/>



挿入図【箱島湧水】



表紙説明

「雄川堰 群馬県甘楽郡甘楽町小幡の城下町に造られた用水路で「名水百選」他「疏水百選」等に選ばれております。水源は稲含山から流れる一級河川である雄川で、現在採水・飲用不可ですが、小幡地区北方の水田地域を潤しており景観を楽しむ名水名所として保存され親しまれています。

造られたのは今から400年前、江戸時代初期、織田氏及びその後継承した松平氏によって整備・改修などがされたと伝えられます。」

小学校の給食残渣（生ごみ）循環事業の取り組み

太田市 谷之木勇作

昨年10月、くあいこやしばの会（代表：樋口浩子）が、群馬県代表としてリデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰にて会長賞を受賞致しました。同時に内閣総理大臣賞、経済産業大臣賞、国土交通大臣賞も発表され、大手企業を中心に受賞しています。

くあいこやしばの会では、九合小学校の片隅に「生ごみ堆肥化コーナーを設置させて頂き、毎週木曜日に九合小学校、中央小学校、旭小学校の給食センターで、分別された生ごみを回収しています。それに落葉やEMボカシを混ぜ合わせ、コンポスターを利用して堆肥化しています。

その堆肥を中庭に施し、九合小学校の子供達や先生方と協力し、さつま芋を育てています。



又、完熟した生ごみ堆肥を袋に詰め、九合小学校、中央小学校、旭小学校にお配りして、活用して頂いています。

給食残飯を回収した後の透明ビニール袋は、洗浄し乾燥させた後に、生ごみ堆肥を入れるパッケージ袋として再利用致します。

その他にも、校庭内の周辺に花を植え、美化にも努めています。

私自身も、くあいこやしばの会の一員として、出来るだけ参加させて頂いています。

現代社会で、手間と時間がかかり面倒臭い生ごみ堆肥化循環事業は敬遠されるかもしれません。



しかしながら、食べ物をどのように始末していくかは、現代社会において大きな課題の一つです。

この取り組みは、生ごみを適切に処理し、土に還すことで無理なく楽しく「ごみ減量」が出来ることや、作物や花を育てる際の堆肥の重要性を実感することが出来ます。

子供達が、さつま芋収穫の喜びとともに、生ごみは、ただのゴミではないことを実感してくれば、大人になった時、社会は少しずつ変わるのではないかと感じます。

「ぶらり、途中下車！ 上信電鉄の旅♪」 —公共交通を利用して—

伊勢崎市 高橋陽子



JR高崎駅改札より徒歩2分、上信電鉄高崎駅改札口へ。

上信電鉄1日フリー乗車券を購入し、いざ、一路、上州新屋を目指し一行はゆく。

下車後、誰が言ったか三途の川を渡り、極楽めんたいパークへ。入口で明太子のおもてなしを頂き上機嫌。そのまま工場見学。すかさずお土産を購入。再び三途の川を渡ると、散歩をしていた地元の方が、近くのお寺の門前の川なので三途川となったそうよとお教え頂く。

再び運転手さん1名で改札もこなす列車に乗車。終点、下仁田で下車。下仁田のレトロな街並みをワクワクしながら通り抜けると、ご当地仰天グルメ、これぞ「すき焼き県！」下仁田ネギ入、極上牛・豚・鳥すき焼きを満喫し、食後は路地をすりと通り抜け、川にある青岩公園のジオ



パークで日本列島の成り立ちを参加の国安さんより御教授頂き、国安さんのお知り合い、地域の地域史研究者でもある里見哲夫先生に連絡を入れると、突如連絡を入れたにもかかわらず快く地域の歴史や石塔の歌碑の解説をして頂き、文化遺産でもある先生のお宅にも招いて頂いた。車窓から眺める御荷鉾山の山並みと歩くスピードの鉄道旅、路地裏の街並みや地元の方とのめぐり逢い、心のふれあいと我を振り返る旅でもありました。



帰りには、上州富岡駅で途中下車、世界遺産センターで県内の繭の歴史を学び、近くのご当地クラフトビール醸造所でもある上州富岡ブリュワリーさんで皆さんの楽しかった思い出をお聞きし、ホッとする一時を過ごさせて頂きました。地域の繋がりと沿線を短時間で満喫できた在来線旅鉄旅。楽しかった～♪

（環境用語解説）内分泌かく乱物質：下仁田の旅でホルモンとビタミンの違いが判らない との話が出ました。いずれも微量で作用する点は似ています。しかし、ビタミンは栄養として体外から取り入れるのに対し、ホルモンは私たちの身体の中で作られ、血液中に分泌（内分泌）されます。また、ビタミンは機械の油のようにして代謝を促進するのに対し、ホルモンは細胞膜や細胞核にある受容体を介して代謝、免疫、成長、生殖などの様々な生理機能を劇的に制御（亢進または抑制）します。一方、現代社会はおびただしい量と種類の化学物質にあふれています。これらの中にはホルモン受容体を介するなどして内分泌系に影響を及ぼす物質の存在が疑われています。これらの物質は内分泌かく乱物質（endocrine disruptor）と呼ばれています。私たちは環境中にあふれている農薬などの様々な化学物質の暴露にも注意する必要があるようです。

広報委員 井上記

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。各号のレイアウトは3月、6月、9月、12月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp